

パンソリ  
15:30 ~ 15:45  
座談会  
15:45 ~ 16:15  
司会：福岡正太

## 座談会「アリラン峠を越えていく —研究・公演・映像を通じた実践—」

寺田吉孝  
高 正子（非会員）  
安 聖民（非会員）

2014年7月、国立民族学博物館が開催した研究公演「アリラン峠を越えていく——在日コリアン音楽の今」は、それぞれ異なる背景をもち、異なる音楽ジャンルで活躍する在日コリアン音楽家が共演する公演として企画された（出演：安聖民、李政美、金剛山歌劇団ほか、解説：高正子、企画：寺田吉孝・高正子）。タイトルの「アリラン峠」は、在日コリアンにとって、峠の向こう側にあるかもしれない「希望」に向かい、越えなければならないさまざまな困難を象徴する。これをきっかけとして、寺田吉孝、高正子両氏は、出演者たちの音楽活動の調査・取材を重ね、映像作品「アリラン峠を越えていく——在日コリアンの音楽」（国立民族学博物館制作、2018年、75分）を完成させた。映像は、「祖国」と日本のはざままで葛藤をかかえながら、自己の音楽を模索する音楽家の姿を描き出すと同時に、彼らが公演において何を得たのかが語られている。公演の企画と映像の制作は、在日コリアン音楽の状況に何をもたらしたのか。公演・映像の出演者であった安聖民氏と趙倫子氏によるパンソリに続き、寺田吉孝、高正子、安聖民の3氏に話を聞く。（福岡正太）

\*民博特別研究「パフォーマンス・アーツと積極的共生」との共催。映像作品「アリラン峠を越えていく——在日コリアンの音楽」の視聴については、表紙裏の「みんなくシアター」についての情報をご参照ください。

## パンソリ『興甫歌』

唱者：安 聖民（非会員）  
鼓手：趙 倫子（非会員）

韓国の語り芸パンソリは唱者と鼓手の二人で奏でられる、楽譜がない口承伝統芸能です。パン（판）は多くの人々が集まる「場」を、ソリ（소리）は「音」を意味します。2003年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。パンソリの世界を満喫するためのポイントは「声を楽しむ」「表情を楽しみ、場面を想像する」「独特のリズム感を楽しむ」「チュイムセ（掛け声）を入れる」等…。演者と観客との一体感が生まれるのも魅

力のひとつ。今回は古典演目『興甫歌（フンボガ）』より、「フンボがひょうたんを割ってみると…」の場面をご覧ください。

#### 『興甫歌』あらすじ

昔々、全羅道・雲峰と慶尚道・咸陽の境にノルボとフンボの兄弟が暮らしていたが、正直者の弟フンボは意地悪な兄ノルボに家から追い出される。貧しくも懸命に暮らすフンボは、ある日巢から落ちたツバメを助ける。翌年の春、南国から戻ったツバメはお礼にひょうたんの種を落としていく。秋になり、ひょうたんで飢えをしのごうと、フンボ夫婦がその実を割ると、中から金銀財宝があふれ出し、フンボ一家は億万長者になる。それを知った兄ノルボは、ツバメを捕まえてわざと足を折り、治してやったふりをして逃がす。次の年、同じようにツバメにもらったひょうたんを割ったノルボは、出てきた鬼たちにひどい目にあわされる。弟フンボに助けられたノルボはやっと改心し、兄弟は未永く仲良く暮らす。

（解説：安聖民）

#### 非会員登壇者・演者紹介

##### 高 正子（こお・ちよんじゃ）

神戸大学非常勤講師。大阪生まれの在日2世、在日コリアンの生活史研究。「四国で受け継ぐ済州島S村の祖先祭祀：生活文化の経験と変容②」『二世に聴く在日コリアンの生活文化—「継承」の語り』橋本みゆき編著、社会評論社、2021、pp.131-154他。



##### 安 聖民（あん・そんみん）

大阪市生野区生まれ。1998年韓国留学。2002年漢陽大学音楽大学院国楽科修士課程修了。韓国重要無形文化財第5号パンソリ「水宮歌」技能保有者である南海星先生に師事し、2016年履修者認定。2013年第40回南原春香国楽大典・名唱部にて審査員特別賞受賞。2016年「水宮歌」完唱公演。2019年「興甫歌」完唱公演。



##### 趙 倫子（ちよ・りゆんじゃ）

大阪府大東市生まれ。韓国東亜大学校日語日文学科修士課程修了。2008年より民族文化牌マダンにて活動。楽士はもとより、創作パンソリやマダン劇の脚本をてがける。2020年詩集『海女たち』（ホ ヨンソン著、姜信子・趙倫子訳）で翻訳家デビュー。

